

群馬県立がんセンターにおける看護職員負担軽減計画（令和8年度）

当センターでは、看護職員の負担軽減及び処遇改善のため、下記の項目について取組を行っています。

No	取組項目		具体的な取組み
1	多職種との連携による業務分担	薬剤師	病棟・外来に薬剤師を配置し、薬剤の管理、患者指導を通じて得た情報を看護部へ提供する。
			抗がん剤等の適切な無菌調製を行う。
			入院時の持参薬鑑別報告により、適切な薬剤継続に繋げ、ハイリスク薬等について情報提供する。
		管理栄養士	患者給食トレイに箸とスプーン、お茶をつける。
		リハビリ職種	言語聴覚士による摂食嚥下評価の実施。
		臨床工学技士	MEセンターによる各種医療機器の集中管理の実施。
2	看護師の確保と定着（7対1看護体制の安定的な配置）		就職ガイダンスや当センターホームページへの掲載、インターンシップ生の受入れ、その他のあらゆる機会を通じて、がんセンターの看護に興味を持ってもらい、群馬県看護職員への応募行為へ導くとともに、部署の看護ニーズに対応できるような会計年度任用職員の採用を行う。また、採用後定着できるような体制を継続する。
3	夜勤負担の軽減		夜勤専従看護師の導入を継続する。また、正規職員の夜勤専従を定期的に導入し、全体の夜勤数の減少を図る。勤務インターバルを図り、身体的、精神的負担を減らす。
4	看護周辺業務対策		【看護補助者へのタスクシフト】 看護補助者に導入したクリニカルラダーを活用し、直接的なケア等の移譲を増やす。
			【外来・病棟クラークの配置及び業務の向上】 主に看護職員の事務的業務を担うスタッフとして、外来・病棟クラークの安定的な配置を図るとともに、業務内容の充実を図る。
5	時間外勤務の削減		勤務時間前勤務について見直し、業務改善を図る。日勤帯における看護記録の時間帯を見直す。可能な範囲で院内研修を時間内に実施する。ICTの導入を検討する。
6	多様な勤務形態の導入		柔軟な勤務形態の導入により勤務可能な看護師がいるため、働ける勤務者数を増やす。また、増やせる範囲で勤務時間数を増加する。
7	e-ラーニングの活用		導入したe-ラーニングを効果的に活用し、研修講師の資料作成や講義の負担軽減を図る。
8	PFMの活用		多職種が連携して入退院の流れを最適化するペイシェントフローマネジメントの見直し。入退院の調整、患者の待ち時間、患者満足度、退院支援等を見直し、患者が適切なタイミングで適切なケアを受けられるよう患者の流れの最適化を図る。
9	システム面での業務支援		生成AIでのオリエンテーション動画を活用し看護師の負担軽減を図る。ベッドサイド端末からのバイタル転送、音声入力システム等、看護記録生成AI、WEB問診等、業務支援につながるシステムを導入し、負担軽減を図る。